

木村長門守

脚色者 小國比沙志
監督者 石山松
撮影者 塚越成治
帝キネ 時代映畫

主要役割

木村重成 市川百々之助
片桐且元 嵐 璃徳
眞田幸村 尾上 紋十郎
豊臣秀頼 中村 小福
淀君 千草 香子
千姫 山下 澄子
重成妻お菊 青木 芳美
眞野豊後守 明石掃部助 實川 延松
後藤又兵衛 薄田半人 中村 恒男
大野道大 大野 三郎
大野治房 長曾我部 木島 要之助
茶坊主宗右 右京大夫局 日の本 一男
東 崎之助
園 崎子
尾 崎子
大 崎子
大 崎子
阿茶局 鈴 木信子
郡主馬介 嵐 璃 兒
渡邊 糺 中村 正二郎
片桐出雲守 喜多 見順
重成市郎兵衛 重成 太郎
重成太兵衛 佐々木 六郎
眞田大助 眞田 大助
坂崎出羽守 坂崎 大助
織田有樂齋 徳川家康 松川 好子
正榮尼 徳川 好子
大久保彦左衛門 大久保 彦左衛門



眞 寫 「木村長門守」帝キネ百々之助映畫。主役木村重成に扮する市川百々之助氏

井伊掃部頭 藤間 松太郎
本多佐渡守 市川 長十郎
酒原 長田 芳川
成瀬半人 中村 獅歌平
堀園右衛門 實川 延松
安藤對馬守 市川海老三郎
藤堂高虎 沖田 英三
上杉景勝 片岡 紅三
板倉周防守 中村 仙三郎
本多振雲枝 多月 半之助
松葉 笑子
解説 「忠孝美談」につぐ石山稔氏の監督作品である。
略筋 石田三成、淀君等の讒言に依り秀吉の怒りを貰った關白秀次が、秀頼に官職を譲つて忠臣木村常陸守と共に血涙呑んで自刃してから五年の後、水郷琵琶の湖畔堅田の城に、前の近江の大守、佐々木六角宰相義郷を訪れた四人の旅人があつた。それは木村常陸の遺子春雄並生母、常陸の愛妻右京大夫の局であつた。斯くて、剛直佐々木の薫育を受けること十有餘年、慶長十九年二月五日義郷の引合せ並に大藏の局の推舉に依つて大阪城に奉伺、秀頼公に謁見、新地七百石長門守に任官し、重成は始めて多端なる大

阪城中の人さなつた。才色兼備而も武勇に優れたる重成は、陰險な大野一派と意氣合はず、その反映として武將等の信任を得、秀頼の知遇は日に厚かつた。茶坊主の宗右はこれを嫉妬し或る日悪計を廻らし城中に於いて重成を斃しめつたが、大量な重成は茶坊主如きを相手にしなかつたため反つて宗右は皆から辱められた薄田半人、堀園右衛門等に非道い目に會されて改倭し重成に心服した。八月三十日片桐且元總奉行、秀頼公名代として織田有樂は京都大佛殿に開眼供養を行はんとした時その銘に不詳ありさて關東將軍徳川家康の命として差止められた。而も家康は且元に三つの難問を發し片桐を苦しめたため大阪城内には片桐斯罪の風評が立つた。大野道大、淀君等の奸計に遂に片桐は大阪城を去らねばならなかつた。重成は片桐の苦衷を知つてこれを慰め眞田幸村及大助父子を大阪城に迎へた。同十一月十五日遂に關東關西の協調は決裂して家康から派遣された上杉景勝、佐竹義宣の先陣に大阪城總攻撃の火蓋は切られた。重成はこの戦に屢々敵軍を破つて大功を立てた。このこと天聰に達し勅使は派遣せられ、兩軍の間に和を講じられた。家康早くも戦利あらずと知り講和を利用して外讎を埋めることを議した。十九年十二月廿日和議なつて茶白山の家康の陣所に木村重成は使者として選ばれて立つた。そしてその重任を立派に果して秀頼より面目を施した。然るに和睦條件以外に本多佐渡守は内讎を破却したため城内は色を失ひ、遂に眞田木村の開戦論となり、四月廿三日再び關東關西の手は切れた。重成の妻は死を以つて夫を勵ました。決然として立つた重成は忠臣市郎兵衛太兵衛を連れて秀頼公に最後の御目通りして華々しく出陣した。斯くて六千七百騎の統帥として木村重成は關東の大合戦の火蓋を切つた。